【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大阪府

Ⅰ　学校の概要（平成１５年４月現在）

学校名	大阪市立　栄　小学校								
学　年	１年	２年	３年	４年	５年	６年	養護学級	計	教員数
学級数	１	２	２	２	２	２	２	１３	１８
児童数	３１	４７	４４	４２	５０	４６	６	２６６	

Ⅱ　研究の概要

１．研究主題

学力向上とこれからの人権教育

２．研究内容と方法

⑴　実施学年・教科

・全学年・全教科
小学校の６年間通して系統的に取り組むことが、学力向上のために有効であるため。

⑵　年次ごとの計画

平成15年度	○　テーマ 児童が「できた！」「わかった！」喜びを実感できる指導法の研究 ――学年複数担任制を生かした少人数指導の工夫―― ○　研究の見通し（仮説） 学級の枠を取り外し学年全体を１学級とし、学年配当の教師全員がその学年の担任としてチームを組み連携して、各教科・総合的な学習・道徳・特別活動や学校行事等の指導にあたる。このような指導体制をとることによって、少人数分割指導・ティームティーチング・教科担任制等柔軟な指導形態を工夫でき、児童の実態に応じたより効果的な指導を行うことができる。 ○　研究の内容・方法 各学年配当の教師を学級担任としてではなく、学年担任として位置づけ、学年全員の児童と関われる指導体制にする。教科や単元・内容によって、少人数分割・ティームティーチング･教科担任制･学年一斉指導等の指導形態を柔軟に組み合わせ、全学年で日常的に少人数指導を行う。 全学年全学級の研究授業を実施し、少人数指導のあり方について検証する。 研究授業を通して確認したことを全学年全学級の授業公開を行うことで、再検証する。

平成16年度	○　テーマ ○　研究の見通し（仮説） ○　研究の内容・方法	平成15年度に同じ

(3)　研究推進体制

○　研究の方向性の決定
　研究部(研究テーマ・方法・計画)　⇒　学校運営会議　⇒　職員会議　⇒　実践
○　研究の方策
・　各学年で日常的に学年複数担任制による指導
・　日頃の実践の中から効果的な実践を校内研究授業で提案・検証
・　研究授業で検証されたことを公開授業で追試・他校に発信・再検証
・　研究の成果のまとめ

Ⅲ　平成 15 年度の研究の成果及び今後の課題

１．研究の成果

本校の教育改革は、フロンティアスクールとして指定される以前からの継続的な取り組み(1996 年度から)であり、児童の学力向上の評価には、大阪市小学校教育研究会作成の「しんだん」テストを用いて分析してきたが、８年前に取り組みを始めた時点では、算数科において抽出校の平均値との差が、２０ポイント以上あった。しかし、昨年度末の結果は、何れの学年も５ポイント以内の差まで縮められている。

また、本年度大阪市が、小学６年生と中学３年生を対象にして行った学力実態調査においても、国語科では、平均値をわずかながら上まわっており、算数科においても８ポイント程度の差にとどまっている。

このことは、本校が一貫して取り組んでいる、学ぶ意欲を喚起する楽しい授業づくり、一人一人の「できた」「わかった」喜びを大切にする指導の工夫の積み上げによるものである。

２．今後の課題

継続的に取り組みを続けることで、計算力や漢字を読める・書ける等の基礎学力は確実に伸びてきている。しかし、問題の意味を読み取ったり文章の要旨を読み取ったりする力はまだ十分についているとはいえない。

今後は、「計算できる」「漢字が読める」ことを基礎として、さらに考えながら読む、よりよく判断する力を高めるために指導形態や指導法の研究を進める。

Ⅳ　学力等把握のための学校としての取組

毎年度２月中旬に、大阪市小学校教育研究会算数部・国語部作成の「しんだん」結果を基に、児童の学力向上の分析を行っている。

１年生からのデーターを蓄積することにより、学年の児童全体の学力実態把握、児童一人一人の学力実態を把握し、次年度の取組の参考にしている。

Ⅴ　フロンティアスクールとしての研究成果の普及

１２月４日　授業公開・全体会・分科会で成果報告
１２月２５日　大阪市教育改革フォーラムで成果報告

【新規校・継続校】　１５年度からの新規校
【学校規模】　７～１２学級
【指導体制】　少人数指導　Ｔ．Ｔ．による指導
【研究教科】　各教科・総合的な学習等全般
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】　有